

みなとタウンフォーラム・第5グループ 国際化・文化分野

令和2(2020)年3月23日

みなとタウンフォーラム第5グループ [メンバー]

石川 結万	岩端 由美子	宇都宮 和美
杉浦 亮介	中村 絵里子	丹伊田 杏花
原 鐵二	森 一	

※メンバーは五十音順



提言にあたって

第5グループ【国際化・文化分野】

第5グループでは、国際化と文化振興について検討を行いました。

参加メンバーが共通して認識している港区の特徴としては、多くの大使館が立地していることや、たくさんの外国人が暮らし、訪れていることなどが挙げられました。その特徴を、港区をよりよくすることに生かすため、国際化に関して2つのテーマ、文化振興に関して1つのテーマを議論し、提言をとりまとめました。

国際化については、「国際都市の実現」と「外国人との相互理解の促進」をテーマとして提言を行いました。いずれも外国人が安心感を持って、日本人と共に気持ちよく暮らすことができることを理想としています。そして、「国際都市の実現」では交流促進という観点から、「外国人との相互理解の促進」では文化の理解とルールの受容という観点から議論を行いました。

文化振興に関わるテーマは「文化・芸術

に触れる機会の創出」です。関心の大小にかかわらず文化芸術に触れ、誰もが楽しむことができるようにするための提言を行いました。

3つのテーマに共通するコンセプトは「垣根を低く」です。日本人と外国人のあいだにある「垣根」、異なる文化や生活習慣のあいだにある「垣根」、そして文化芸術と私たちのあいだにある「垣根」を低くするための提言と言えます。

このような提言に至ったのは、本グループのメンバー自身が、年齢・性別・職業・価値観等の「垣根」を超えて、いずれのテーマについてもフラットな関係性で積極的に議論をしてきた結果と言えます。

地域共生社会という理念を掲げ、その実現を目指す港区において、国際化と文化振興の2つの領域で「垣根」を低くするための私達の提言が積極的に受け止められることを期待します。

提言の体系

テーマ	提言内容（具体的な事業）
国際都市の実現	テーマ性のある交流機会の提供
	外国人が情報を受け取ることができる環境の創出
外国人との相互理解の促進	言葉の壁を低くするための支援
	生活する上でのルールを知るきっかけづくり
文化・芸術に触れる機会の創出	オープンスペースの活用
	風物詩となるイベントの実施
	人気のあるイベントや活動の集中的な実施
	区民の活躍の場と交流機会の充実

第1グループ
【街づくり分野】

第2グループ
【防災・生活安全分野】

第3グループ
【環境・リサイクル分野】

第4グループ
【地域コミュニケーション分野】

第5グループ
【国際化・文化分野】

第6グループ
【産業・観光分野】

第7グループ
【子育て・教育分野】

第8グループ
【生涯学習・スポーツ分野】

第9グループ
【福祉・保健分野】

テーマ① 国際都市の実現

計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

外国人と日本人の自然な交流を通じて、誰もが安心して暮らせるまち

港区には多くの外国人が住み、働き、そして観光やビジネスに訪れている。多様な人々が同居する地域で気持ちよく暮らしていくためには安心感が不可欠である。そのような安心感は、治安や防災の取組も重要だが、国際都市という観点からは地域における人々との交流によってこそ得られるものと考えられる。言葉や文化が異なっても自然と交流でき、気持ちよく、安心して暮らすことのできる国際都市を目指す。

実現に向けた課題

- 外国人と日本人が交流する機会が十分ではない。
区は交流機会をつくってはいるが、その後も交流が継続し、人間関係がつけられるきっかけにはなっていない。
- 外国人に向けて情報発信を行っているが、十分に伝わっていない。
区では多言語による発信や「やさしい日本語」の活用など、様々な手法を用いて外国人向けに情報発信を行っているが、情報が必要な人がキャッチできていない。

取組の方向性

- 継続的に交流できる機会をつくる。
1回限りのイベントではなく、継続的な交流につながるきっかけとなる事業を実施する。
- 外国人が求めている情報を的確に届ける仕組みをつくる。
外国人が自分のニーズに応じて情報を取捨選択し、必要かつ適切な情報を入手できるよう、アナログも併用した新たな伝え方に取り組む。

具体的な事業

- テーマ性のある交流機会の提供

参加者に共通する趣味や互いに関心ある社会的なテーマ（防災等）を前提とした交流機会をつくる。そして自然にコミュニケーションをとり、継続的な交流へと発展することを目指す。また、子どもがイベントに参加しやすいよう工夫し、子どもの頃から積極的に外国人と交流する姿勢を育む。

- 外国人が情報を受け取ることができる環境の創出

SNS等のオンラインはもとより、大使館や企業、外国人コミュニティ、商店等のつながりを活用し、外国人がダイレクトに情報を受け取ることができる環境をつくる。

参画と協働の推進(区民等の事業への携わり方)

- 様々な国籍の区民や在勤者が、イベント等にボランティアとして参加する。
- 外国人が多く勤める企業等と連携し、情報提供を行うほか、研修機会として外国人にイベント参加を促す。
- 外国人が多く集まる区内の商店・飲食店を經由して外国人に情報提供を行う。
- 日本人の区民が近所に住む外国人に積極的に情報提供を行う。

テーマ② 外国人との相互理解の促進

計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

国籍の垣根を低くし、自然な「国際調和」を実現

あらゆる国籍の人々がストレスなく、共に暮らすためには「相互理解」が求められる。受容と理解のバランスが取れている状態が目指すべき姿である。その実現のためには、外国人が日本で生活する上でのルールを受け容れ、日本人は外国人の自国文化を理解することが必要である。このようにお互いが歩み寄ることによって「相互理解」を育み、垣根を低くしながら、ストレスなく共に暮らすことのできるまちを目指す。

実現に向けた課題

- 言葉の壁が存在する。
「相互理解」にはコミュニケーションが必要だが、外国語ができなければならず、また外国語ができたとしても文化が異なるために理解が十分でない場合がある。
- 外国人に生活する上でのルールを伝えることができていない。
区では転入時などに日本の生活ルールを伝える取組はしてきているが、十分に浸透しておらず、外国人が意図せずにルールに反してしまうケースが生じている。

取組の方向性

- 外国人と日本人の双方向から言葉の壁を低くする。
「やさしい日本語」を、お互いが言葉の壁を低くするためのコミュニケーションツールと捉え、外国人も日本人もともに活用するように促す。
- 外国人が生活する上でのルールを知り、理解するための情報提供を工夫する。
説明の工夫によって外国人にとって理解しやすいものにするとともに、伝え方自体を見直し、的確に情報伝達ができるようにする。

具体的な事業

- 言葉の壁を低くするための支援
 - 「やさしい日本語」の活用促進
円滑なコミュニケーションのため、外国人はもとより、日本人の「やさしい日本語」を学ぶ機会を充実させるとともに利用を促す。
 - 言語の習得に対する支援
外国人が日本語を習得する際の支援を行うことで、各人が言葉の壁を低くするための支援を行う。また、外国人と日本人の交流機会のなかでお互いが言葉を学ぶきっかけをつくる。
- 生活する上でのルールを知るきっかけづくり
ごみの分別や交通ルールなど、暮らす上での最低限のルールを理解してもらうことが必要。分かりやすく、また訴求力のある媒体・コンテンツについて検討し、ルールを自然に受け入れられるようにする。

参画と協働の推進(区民等の事業への携わり方)

- 日本人の区民が外国語や「やさしい日本語」を積極的に習得し、活用する。
- 日本語支援ボランティアの活躍の場を広げる。
- 企業等が企業研修や社内の人脈で、勤務する外国人に生活習慣を教える。
- 日本人の区民が近所に住む外国人に生活習慣を教える。

テーマ③ 文化・芸術に触れる機会の創出

計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

日常の中に芸術を

文化芸術は「みる」側も「つくる」側もともに楽しむことができるものである。しかし、関心のない人は触れる機会がほとんどなく、興味を持っている人も様々な事情で触れる機会を得られずにいることがある。そこに存在する垣根を低くし、または越えることで誰もが文化芸術の魅力に気づき、楽しむことができる、住んでいてよかったと思えるまちを目指す。

実現に向けた課題

- 文化芸術に関心がない人が魅力に気づく機会を得られていない。
文化芸術は、関心がない人にとっては垣根が高く、触れる機会がないため、楽しむこともできていない。関心を持ってもらうようにするには時間がかかる。
また、イベント等は多数実施されているが、どれを選んだらよいかも分からない状況がある。
- 関心があっても思うように触れることができない人がいる。
文化芸術に関心があっても、育児や介護、仕事等で鑑賞や創作・表現活動を行う機会を得られない人が少なくない。
- 在住アーティストの活動の場、区民との接点が少ない。
多くのアーティストが在住している港区の強みを生かし切れていない。

取組の方向性

- 日常の中で魅力的な文化芸術に気軽に触れることができるようにする。
人々の生活環境の中のオープンスペースを活用して事業を実施し、日常的に文化芸術に触れることができるようにする。
- 区内で活動をしている区民の存在を生かす。
港区にはプロ、アマチュアを問わず様々な活動をしている区民が多くいることを強みとして生かす。そのような活動をしている区民が活躍することで、文化芸術を身近なものとして感じてもらう。

具体的な事業

- オープンスペースの活用
美術館やホールなどの施設の外や、公共の空間に作品を展示するなど、関心のない人やなかなか触れる機会を得られない人も、生活の中で自然と文化芸術に触れることができるようにする。
- 風物詩となるイベントの実施
定番のイベントを実施して定着させることで、港区の風物詩的イベントとなり、参加しやすさや集客力を高める。
- 人気のあるイベントや活動の集中的な実施
ひとつのイベントとしては敷居が高いジャンルの公演など、入門編としていくつかの分野の公演を一堂に集めて実施する。そして、親子連れや子どもでも気軽に触れられるようにする。
人気の高かった公演や展示等をリバイバル実施する。
- 区民の活躍の場と交流機会の充実
アーティストとして活動する区民に活躍の場を提供することで、区民の鑑賞機会を増やし、かつ活動する区民のステップアップの機会とする。さらに広く区民と交流する機会ともすることで文化芸術を身近に感じるようにする。
近くで鑑賞するだけでなく、一緒に練習する等体験する機会をつくり、「みる」側から「する」側からの楽しさも知ってもらう。

参画と協働の推進(区民等の事業への携わり方)

- 区民目線で、区民が身近に感じる事業について検討・企画する場を設ける。
- 創作・表現活動をする区民が、地域の身近なところで公演等を行う。

開催経過 第5グループ【国際化・文化分野】

回数	開催日時	内容
第1回	令和元年9月20日(金) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・事務局紹介・グループ会議の進め方について・分野における現状と課題について・検討テーマの選定
第2回	令和元年10月9日(水) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・前回の確認・リーダー、サブリーダーの選出・「国際都市の実現」に関する現状と課題について・テーマについての検討
第3回	令和元年10月23日(水) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・前回の確認・テーマ「国際都市の実現」に関する意見交換
第4回	令和元年11月6日(水) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・前回の確認・テーマ「国際都市の実現」について・テーマ「外国人との相互理解の促進」について
第5回	令和元年12月4日(水) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・前回の確認・テーマ「外国人との相互理解の促進」について・テーマ「文化・芸術に触れる機会の創出」について
第6回	令和2年1月15日(水) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・テーマ「文化・芸術に触れる機会の創出」について・テーマ「国際都市の実現」の提言について・テーマ「外国人との相互理解の促進」の提言について
第7回	令和2年1月29日(水) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・前回の確認・テーマ「文化・芸術に触れる機会の創出」について・テーマ「国際都市の実現」の提言について・テーマ「外国人との相互理解の促進」の提言について
第8回	令和2年2月12日(水) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・テーマ「文化・芸術に触れる機会の創出」の提言について・テーマ「国際都市の実現」の提言について・テーマ「外国人との相互理解の促進」の提言について